

# 信州の環境にやさしい農産物認証 栽培事例（水稲）

認証取得者氏名	(有)信州ファーム荻原	認証番号	50-00013	地域名	上小
地域（標高）	700m				
土壌（土性）	粘土、砂壤土				

項目	生産計画の内容	補足メモ																																							
1 栽培 状況	(1) 品目	米（品種：コシヒカリ）																																							
	(2) 面積	6,299 a																																							
	(3) 栽培戸数又は労働力	8名																																							
	(4) 栽培期間	平成27年3月～平成27年10月																																							
	(5) 収穫期間	平成27年9月15日頃～平成27年10月25日頃																																							
	(6) 収穫量	H25実績 360,000 kg（うち出荷量：360,000 kg） H26計画 388,296 kg（うち出荷量：388,296 kg）																																							
2 栽培 方法	(1) 土づくり	土壌診断結果に基づく土づくり計画																																							
	(2) 播種	平成 年 4 月 10 日																																							
	(3) 育苗	平成 年 4 月 10 日～6 月 12 日																																							
	(4) 田植え	平成 年 5 月 9 日～6 月 12 日																																							
	(5) 施肥	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナル肥料（りんご堆肥）による微量元素の補給</li> <li>・微量元素の有機質資材を使用、環境負荷の軽減</li> <li>・有機物の循環 稲わらすき込み</li> <li>・レーザーレベラーによる栽培環境の均一化</li> <li>・すき耕起による深耕、土壌団粒化、乾土効果、有機物のすき込みによる分解促進</li> <li>・オリジナル肥料、有機資材の使用は、各圃場・地区にて、土壌・環境が異なるので、それぞれの生育にあった栽培資材を検討し、化学肥料の削減・水稲の健全な生育のため使用しています。</li> <li>・りんご堆肥は、土づくりの観点で、栽培に適した堆肥を製造し、施用しています。また、稲わらのすき込みや、すき耕起、深耕等も土壌環境の改善やガスわきの防止、化学肥料の削減のため行っています。</li> <li>・レーザーレベラーは、圃場の均平をとることにより水稲の生育ムラの防止と、限られた農薬を効率よく効かせるために行っています。</li> </ul> <p>肥料の施用状況（29ha）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">肥料の種類</th> <th rowspan="3">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="4">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">窒素</th> <th rowspan="2">リン酸</th> <th rowspan="2">加里</th> </tr> <tr> <th>うち化学由来</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アミノ有機P</td> <td>150</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>アミノシャープ100</td> <td>100</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ロイヤルグアノ</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>270</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>13</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>低減率 (%)</td> <td>100</td> </tr> </table>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)				窒素		リン酸	加里	うち化学由来		アミノ有機P	150	6	0	5	4	アミノシャープ100	100	7	0	3	2	ロイヤルグアノ	20	0	0	5	0	合計	270	13	0	13	6	地区慣行施肥量 (kg/10a)	9	低減率 (%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																																							
		窒素			リン酸	加里																																			
		うち化学由来																																							
アミノ有機P	150	6	0	5	4																																				
アミノシャープ100	100	7	0	3	2																																				
ロイヤルグアノ	20	0	0	5	0																																				
合計	270	13	0	13	6																																				
地区慣行施肥量 (kg/10a)	9																																								
低減率 (%)	100																																								

2 栽培方法	(6) 病虫害防除	<p>化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除草機械の利用・手取り除草</li> <li>・ あぜ草刈り時期の調整</li> <li>・ エコホープ（生菌）による種子消毒</li> </ul> <p>病虫害防除の内容（29ha）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名※</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分カウント</th> <th>除外カウント</th> <th>慣行回数への付加カウント</th> <th>慣行回数</th> <th>対象病虫害</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺虫殺菌剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>殺菌剤</td> <td>① エコホープDJ</td> <td>200倍</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>細菌性病害</td> </tr> <tr> <td>殺虫剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>植調剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>農薬の使用回数</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>削減率(%)</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病虫害	殺虫殺菌剤										殺菌剤	① エコホープDJ	200倍	1	1	1	1			細菌性病害	殺虫剤										除草剤											植調剤										合計				1	1	0	0		農薬の使用回数	0	地区慣行農薬使用回数	12	削減率(%)	100.0%
		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病虫害																																																																				
	殺虫殺菌剤																																																																													
	殺菌剤	① エコホープDJ	200倍	1	1	1	1			細菌性病害																																																																				
	殺虫剤																																																																													
除草剤																																																																														
	植調剤																																																																													
	合計				1	1	0	0																																																																						
農薬の使用回数	0																																																																													
地区慣行農薬使用回数	12																																																																													
削減率(%)	100.0%																																																																													
	(7) 雑草防除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除草機械の利用</li> <li>・ 手取り除草</li> </ul>																																																																												
	(8) 水管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日全圃場を回り、水稻や圃場の異常、生育の過程等をいち早く発見、確認ができるように心がけています。</li> </ul>																																																																												
	(9) 収量の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無農薬、無化学肥料栽培地域では、平均反収8俵以上。50%削減ほ場では、平均反収9俵以上になっています。</li> </ul>																																																																												
	(10) その他特記事項																																																																													

3 販売状況	(1) 主な販売地域	関東
	(2) 販売方法	直接販売、委託販売
	(3) 県認証の活用方法	認証マークを 袋に張り付けてPRしている。
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	最低50%削減で、全ほ場を作付している ので、PRするときに話がしやすい時 もありますが、特別栽培米を認識して いる消費者は、まだ少なく、理解も 偏っているように感じます。

始めた動機	<p>専業農家として、また、若い百姓として、自分たちらしく、自分たちにしかできない農業・お米を作りたくて始めました。</p> <p>そこには、化学肥料・化学合成農薬を使用し続けて、本当にいいのか？ 普通に栽培していて将来的に残れるのか？という疑問と、子供たちや多くの人に本当においしいお米、安心なお米を食べてもらいたい！という想いが以前からあり、環境にやさしい農産物認証が始まった時から取り組んでいます。</p>
農家のコメント	<p>消費者に「信州の環境にやさしい農産物認証制度」や50%以上削減の意味が理解されていない現状もあります。</p> <p>無農薬栽培も制度的には50%削減になるので、無農薬なのか50%削減なのかと尋ねられることもあります。</p> <p>認証制度をもっとPRして販売することで消費者への理解が広がります。</p>

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
耕起施肥							堆肥			元肥									追肥																				
育苗 ～ 収穫													○	～	◎																								
病害虫防除									①									草刈り			草刈り						草刈り												
除草															○																								
土づくり 施肥	<p>稲刈り後の稲わらとアミノ有機（発酵鶏糞）150kg/10aを施用して鋤き込み、稲わらの腐熟・分解促進をはかる。</p> <p>りんご堆肥を使用し、土壌の環境の改善をはかる。</p>																																						

ここがポイント！

栽培管理では、足しげく田んぼに通い、人よりも多く稲を、田んぼを見ることを心がけています。

また、販売では、スタッフ一同、同じ想いで育てたお米を多くの人に食べてもらえるよう、消費者の方と話ができる機会を多くつくるようにして、スタッフみんなで販売しています。

<栽培状況等の写真>

